

令和2年2月13日 ラディアン（未就学児保護者）意見交換会

出席者 12人

- 1 開会
10:00～
- 2 挨拶
森教育長
- 3 説明
・永井指導主事 「第1回意見交換会で出された学校配置に関する意見の比較について」
「小中一貫教育のメリット・デメリットについて」
- 4 意見交換

中里地区住民：最短でいつから小中一貫校の運用を考えているのか。

部長：359人～710人程度であれば、1つの学校として規模的に丁度いいのではないかというのがある。今の学校のスペースにもよる。そしてF案の施設一体型の小中一貫教育を考えた場合、令和7年度が一番早い。

越地地区住民：前回も出席した。表を見て通学のことを配慮していただいたことで安心した。F案で気になるのが、令和12年頃に単級化が懸念されるとあり、始まって約6年で単級化ではもったいないと思う。特色を持たせて人を呼びたいと言われたが、具体的にはどうするのか。町外から人を呼ぶという魅力のあるものなのか。

指導主事：施設一体型で小中一貫教育というのは県内ではありません。なので、それが現実にすることが出来れば、町外から見ても魅力ある学校になると考える。

越地地区住民：それは移住者が増えるという事も想定しているのか。

指導主事：それもあるし、9年間を通した教育を行うことで縦のつながりが

強化されます。たとえ単級になったとしても先生の手が増えているので、今の一色小学校の単級とは違う状況になる。

越地地区住民：先程の先生方の意見は、二宮町内の先生方の意見ですか。

指導主事：その通りです。3年間研究した中で出てきたものです。

越地地区住民：特色というのは、義務教育学校のことを指していると思ったが、F案は何故一色小学校だけが義務教育学校なのか。

教育長：当初は全学校が小中一体型の一貫校でしたが様々な問題があり、小学校区に一つずつ残しても中学校が増えてしまうのでメリットが少なくなる。一色小学校だけを義務教育学校にして先行で進めてもらい、良い結果が出たのであれば、他の小中一体型の学校も義務教育学校にと考える。それから義務教育学校は小中一貫教育校と違い、カリキュラムの中に独自の教科を作ることができ、例えば、二宮の地域に特化した授業を行うことも可能になる。

越地地区住民：義務教育学校を一度に全部で行うことは出来ないのでしょうか。

教育長：今は校長が5人いるので、すぐには出来ない。義務教育学校が海のものと山のものとも理解を得られていないのであれば、先行して試行してやっていきたい。

越地地区住民：なぜ一色小学校が義務教育学校と決まっているのか。

部長：一色小学校は地区に中学校がないので、一色小学校を義務教育学校にして中学生が入れるようにし、まずは試行するという風に考えた。

越地地区住民：同じ町内なのに違うものがあると地域差が出たりする。公立なので均一にすべきではないか。

教育長：現在でもそれぞれの学校で地域のカラーがある。例えば、二宮中学校と二宮西中学校では2学期の始まる日が違っていて、町全体でそろえたらという部分はある。もっと研究を進めて、義務教育学校についての

勉強も必要だと考えている。また、現状のように小中の段差が必要だという意見も頂いているが、義務教育学校では9年間で1年生から4年生、5年生から7年生、8、9年生と区切る必要があると考えている。皆様の了解が得られれば、子ども達のためによりよい9年間の教育を考えて行けたらと思っている。また、子ども達一人ひとりについて丁寧な見取りをしたい。キャリア教育の観点から、小さな頃から子どもの特性を見抜き丁寧に9年間で見続けることが可能となる。文部科学省からも一人ひとりの子ども達を12年間で見取るキャリアパスポートというものを作るよう通達が来ている。9年間一人一人の子どもに寄り添って、小学校の先生も中学校の先生も一緒になって丁寧に連携して育てられたらと思っている。

小学生の保護者（4回目参加）：建物の安全性の数値が示されていない。資料には耐用年数が60年という数値があった。文部科学省や内閣府の資料で2060年問題と言われていますが、リノベーション(修復)して大丈夫なのか、数値的なものが知りたい。また、避難所としても使えるのかが心配です。町に住み続ける上で安全面の数値、構造計算と地盤の調査もしていると思うので、リノベーションするとどれくらい持つのかを聞きたい。

課長：来年度に調査を行いたいと考えている。今出している数値は平成18年までに終わった耐震の構造計算で、IS値というのが示されている。文部科学省で学校は7.0以上の数値と言われている、平成18年度に終わった時は全てクリアしていた。それから13年経過しているので、来年に今一度安全性を確かめるために調査をすることになっている。

小学生の保護者（4回目参加）：地盤はどうですか。

教育総務班班長：公立の学校なので建設当初に地盤調査は行われている。一方で浸水域が変わったり、震度分布が細かいメッシュで出るようになった。震度分布が地盤の一つの要素になると思う。

小学生の保護者（4回目参加）：平成18年度のものでもいいので、公表して欲しい、不安に思っている保護者は多い。

部長：耐震補強はできているし、耐震の数値はクリアしている。今時点(平成18年度)の数値を示すことは可能です。ただ建物の老朽化は進んでいるの

で、老朽化度合いについては来年度の調査で改修の度合いが変わるかもしれない。今のところ既存の学校を改修して小中一貫教育校とすることを考えている。

小学生の保護者（４回目参加）：文科省の補助金もリノベーションの場合と新築の場合と違うが、どのように考えているのか。

部長：新築の場合は条件が色々あり、児童・生徒数が増えてしまって既存の学校に入りきれない場合などは新築に出来る。

小学生の保護者（４回目参加）：今の状態では、一色小学校に新築を建てることは国庫の補助が受けられない可能性が出てくるということか。

教育総務班班長：大まかな言い方だが、今の建物が使えなければ補助金は出ますが、使える建物があるのに、新しい建物がいいというのでは補助金ではない。

教育長：静岡の小中一貫校では、10 教室で付帯設備を含めて 30 億円かかっている。それを考えると、今の児童・生徒数では難しいと思う。将来子ども数が減ってくれば新築も考えて行くべきだとは思いますが、今ではないのかと思う。今は 5 年ぐらい先の、特色のある教育を目指していきたいと思う。

梅沢地区住民：学区が変わるかもしれないと聞いて参加した。一貫教育を進めるにあたり、学区を再編なければいけないというのは、周知が行き届いていないと思う。子どもが安全に学校に通えるというのが重要だと思っていて、家を買う時に学校への通いやすさで選ぶ家庭は多い。案の中に山西小学校や西中学校に学区が再編成されているものがありますが、大人が歩いて西中学校まで行ったら 30 分かかった。近い場所に二宮小学校があるのにも関わらず遠い学校へ通わなくてはならないので一貫教育でなくてもいいと思う。登下校に何があるか分からないし、災害時にも近い方が安心できる。秦野市でも 8 年～9 年ぐらい前から幼小中一貫教育を行っている。幼稚園と小学校が隣にあるのですが、一体化が進んでいないようである。研究を進めていて 2025 年に一体化を目指しているようだが、全てを一体にして先生方の不安や小中の文化の違いを乗り越えられるかが疑問である。一貫教育を目指しているのであれ

ば、研究の成果などを小中の保護者や、これから通わせる保護者にも知らせてほしい。

部長：学区についてですがおっしゃっていることはよく分かる。1つの小学校区に学校が1つというのは地域のことを考えて行っていきたい。子どもの数が減ってきている中で、小中一貫教育をやるやらないは別として5校学校を残すのは、町の状況からして難しい。町の公共施設の再配置計画があって、公共施設を減らしていく中で学校が位置づけられている。教育委員会としては、ただ学校の統廃合を行うのではなく、よりよい教育を目指して小中一貫教育を行いたいと思っている。学区については学校が近い方と遠い方が出てきてしまう。学区については小中一貫校の計画ができて、お話は聞いていかなければいけないと考えている。

梅沢地区住民：学区の境のところで、二宮小学校の方が格段に近い、それでも山西小学校、二宮西中学校の遠い学校に通う可能性があるのか。

部長：皆さんの意見は聞かなくてはいけない。梅沢は東、中、西に分かれて、その部分で区切ることはあるかもしれない。梅沢のどちらに住んでいますか。

梅沢地区住民：東です。

部長：まだ全然決まっていますが、例えば梅沢の東は二中学区に、中と西は西中学区へと考えられなくはない。学区については色々なご意見を伺い、みんなと一緒に考えていきたい。

教育長：秦野市の幼小中一貫教育について学校長として携わっていた経験もある。できることから始めようというのが秦野市の一貫校の経緯である。小中一貫教育については先進校の研究もあり、これから研究を進めていきたいと思っている。まだ、数年間かかるがどんな特色を持って小中一貫教育を町が進めるのかもっと研究していきたい。そのためにも説明して、この計画を進めることの方角性を出したいというのがこの計画案である。今いろいろなパターンがあるが、このぐらいであればみんなが納得できる案で小中一貫教育をやっても良いと言うことであれば、今ワーキンググループを始めていますが、先生がたの力の入れ方も違って来る。研究授業や乗り入れ授業はやっているが、特に真ん中の所の5年生から

7年生については、教科担任制を取り入れながらも学級担任制も残っている。一番研究しなければならないところはそこだと思う。道筋を立てながら教育委員会がリードして進めていきたいと思っている。

越地地区住民：小中一貫校というよりは、学校を減らしていくことかと思ってしまう。小中一貫校の良い面もありますが、教員の方に対する負担が増えることや、子ども達に本来かける時間が研究にかけられてしまうのではないかと考えると不安である。それに先生たちに余裕がないと、子ども達も不安定になると思う。新しいことを始めるのが全て良いとは思えない。小中一貫校の良いところを、今の小中別の状態で、二宮町ならではの子ども達を大事に育てる方向に繋げていただきたい。小中一貫教育校にするとシステムが変わって乗り入れをしなくてははいけないとかシステム化されてしまうのではないかと一貫校の良さが見えない。先生方が思っている不安を同じように感じる。グラウンドの問題についても改善策がなく、休み時間や放課後にどのようにして安全に使うのかの具体策も見えないので、何かあれば教えていただきたい。

指導主事：新しいことをやるので先生方の負担は間違いなくある。質問の答えになるか分からないが、英語が来年度小学校5・6年生から教科化されるが、昨年度6月に担任の先生に対しアンケートをとり、不安だという回答が77%であった。研究において中学校の先生が関わることになり、同年度2月には23.1%まで減った。確かに負担はかかりますが、そのことにより不安が少なくなったことが分かる。ただ、先生方の過剰な負担にならないような対策が必要だと思う。グラウンドの使い方方法はああるが、どれが良いという解決案には至っていない。

教育長：部活動については少子化により、全ての学校で全ての部活動を行うことは出来ない。広域の部活動を考えていかなければいけない時期に来ている。部活動で色分けしても良いのではないかと思う。例えば今のサッカー部は大磯と一緒に رفتたりと既に始まっている。学校ごとに特色を持たせるというのもいいのではと思う。グラウンドと体育館の使用については、しっかりと時間を調整して、工夫をして使っていくことが必要だと思う。

越地地区住民：小学生が安全に通えるようにして欲しいので、小中一貫と学区編制を別にして欲しい。小中一貫教育校だけでなく、子どもにとって

プラスになる選択を研究していただきたい。

百合が丘地区住民：子どもの発達から見て、小学校1年生は大勢の子どもの中で育てた方がよく、思春期の子どもは少人数の方がいいという研究結果がある。そのような観点と安全面から、再配置を考えて欲しい。それと一貫校に変えるのであれば、AI やシステムも進んでいくと思うので、そういうところも変えていけたらいいと思う。今のままのやり方で行くと先生方の負担が多くなるのではないかと思う。

教育長：校長先生が研究を始めていて、川崎の先進校の例で先生がいなくても子ども達だけで授業が進められるような研究をしています。それを小中一貫校に取り込めたらよいと思う。

富士見が丘地区住民：二宮は小さな町なので、今の学校数は必要ないと思う。見直すのであれば、より良いものメリットのあるものを作っていただきたい。ただ、近年は事件も多く安全性は重要なので、スクールバスなどを考えたらいいいと思う。不便になった分は何かで補うことを同時に行っていく必要がある。それから数字が示されていないので、どれぐらいコストが削減出来て、その分教育に回すことが出来るなど、具体的に数字で示して欲しい。メリット・デメリットについても、話題としてはデメリットの部分が多かったが、メリットが多いから小中一貫を考えたと思う。県や国などから色々と意見を聞いて、それを皆さんに示していただきたい。

梅沢地区住民：財政負担についての部分が空欄なので比較にならない。F案の話を聞いていくと教育委員会の方向なのかと感じた。F案にするにしても、小中を1校にするにしても、階段の幅や水道の高さ、トイレの幅、教室の広さも違うので、そういったところの改修に費用がかかる。そこにお金をかけるのであれば、後々人口は減っていくので、ゆくゆくは1小1中になる施設一体型の小中一貫教育校になるのではないかと思う。3つの小中一貫校にお金をかけるのではなく、ゆくゆくのことを考えて町に1校というところにお金をかけ、現状では5校存続させることは難しいということだったので、小学校はそのまま、中学校は1校でいいのではないかという意見である。学区が再編されるとなると、先ほど梅沢地区を分断するという話も出ていましたが、町内会のつながりもありますし、差が生まれてしまうので、やはり学区再編は困る。先生の時間割

についても、校務などはどこで行うのか、勤務時間内に終わるのか大変になってしまうのではないかと思う。それから小中持ち上がりの学校に勤めたことがあるが、デメリットはポジションチェンジができないことです。一度いじめられてしまうと、そのままいじめられたままになってしまう。今は単級の学校に勤めていますが、児童間の人間関係が固定化されてしまう。普通の小学校にいと中学進級時に変わるのを見据えて生活している児童もいる。単級化のデメリットよりも、人間関係の変わらないところのデメリットの方が気になる。

越地地区住民：遠くの小中一貫校より近くの普通校と保護者としては感じる。今日参加している若い世代の方の思うことも同じと思う。この話が始まる前に保護者にとったアンケートで、そのときの結果として単級化はそのままでも良いというのが上であった。統廃合は反対でトップであった。教育委員会の案は真逆であった。保護者の意見と違うものができています。この案が急がれていると感じる。これは令和8年に一色小学校の耐用年数が来てしまうから令和7年に急いでいるのか。

課長：一色小学校のコンクリート構造物耐用年数と関係していることは全くありません。来年度に全部の学校で調査をする。二宮中学校の耐用年数の方が短い。それよりは、一色小の教員や保護者から一色小学校の単級についての課題が多く聞かれる。当事者の一色小学校の保護者の方からは、単級は悪いという意見が多く、小中一貫教育を早く進めてほしいという意見を頂戴している。単級であると先生方にも余裕がないことは事実である。

越地地区住民：このアンケートでは一色小は単級で家庭的な雰囲気があって良いとなっていたので、違和感があった。

課長：研究が足りないのは痛感している。教育委員会として小中一貫が素晴らしいものという意識の中、どうしたら最短でできるかという話をしているので、令和8年に合わせたという誤解を生んでしまった。

部長：長時間にわたりありがとうございます。時間を過ぎてしまい申し訳ありません。まさに子育てをしている方のご意見を沢山頂いた。私たちも感じるころがあった。頂いたご意見をすべて取り入れることはなかなか難しいところあるが、大事にして何らかの形で皆様にお示ししたい。

引き続きご協力をお願いしたい。